

一・西新井にある徳本行者の名号塔とその真筆の掛軸

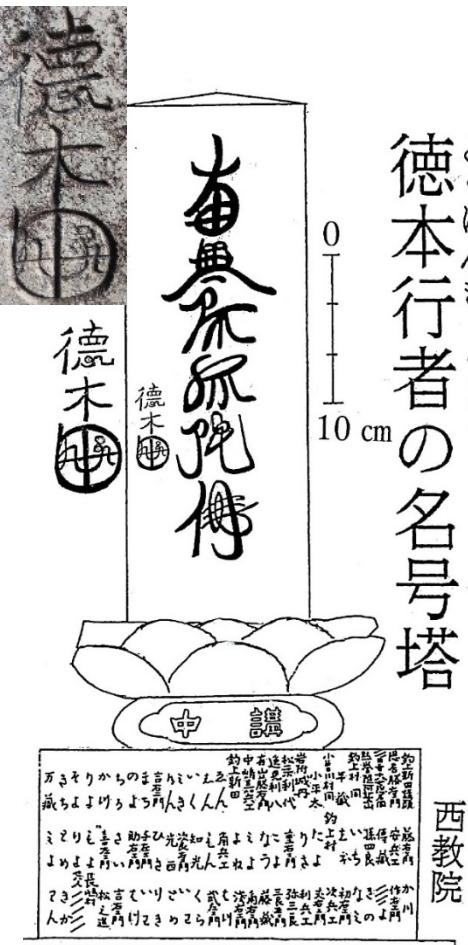
加藤 幸一

徳本行者(徳本上人)は、江戸後期の浄土宗の僧侶で、宝暦八年(一七五八)の紀伊国(和歌山県)の生まれで、念佛を広め活躍した代表的な念佛僧である。全国を回り民衆から熱狂的な支持を集めた。各地に独特的の書体による名号塔が多く残されている。越谷市内の徳本行者の名号塔は、増林の林泉寺、越ヶ谷の天獄寺、越ヶ谷の観音横丁の観音堂、西新井の西教院に見られる。

【西教院の徳本行者の名号塔】

西教院の文化十四年(一八一七)に造立された名号塔は次のとおり。(スケッチ加藤)

徳本行者の名号塔
とくほんぎょうじや



文化14(1817)

右の石塔では「徳木」と刻まれているが、「徳本」の刻み間違いである。信仰の対象となる僧侶の名前の刻み間違いはとても珍しいであろう。台座には奉納者の名前がびつしり刻まれている。正面には76名、向かって右側面には82名、向かって左側面には79名、裏面にも76名がびつしりと刻まれ、多くの周辺の村々の名前もみられ、地元では熱狂的な支持を受けたことがわかる。

【内山家の徳本行者の真筆の掛軸】

0
10 cm



内山家には、西教院の檀家であり、長島村で代々名主を勤めた家柄である。ここに徳本行者の真筆の掛軸がある。現在に至るまで大事に残っているのはとても珍しいのではないか。なお、書の方には正しく「徳本」と書かれているが、この書を元に石工が彫った石塔には「徳木」と誤って刻まれている。

名号塔に刻まれた奉納者名

徳本行者の名号塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 西新井・西教院墓地（東側）
石塔型式 頭部山状角型（南西向き・高さは高）
年号 文化十四年（一八一七）

〔左側面〕

小曾川村台

石門

セ野ハ島かやつ太のさ
人村左六左門

】

文化十四丁丑年六月吉日

〔正面〕

鈎黙當隱鈎
上誓寺居上
半村隨十勝新
同弥世エ講
鶯隱門頭
山居同

末
兵兵村
はかくゆすさまむ宗金久田か林し利金弥ちミカリセもとよりい
るるめききよきめ語エエ ん藏ん介エ良よよんきんのめしよき
門

セ荻
右人
んよよとよきつエよ弥切つのよのねんよめてち
門兵
石門
セハ袋
りきりますミかさいとさふもひさは
太村心右
さちさつききんかさらききとめいつ
んよ左エ門
門

※左側面の名前は、固形墨を使った乾拓法で写し取って解説。

〔右側面〕

〔裏面〕

セ尾
ハケひかも勘い忠はりしふハケい
人崎十左人崎
んうよめるけめん新村めやん良わエるよんり安新よ
門兵田
門

長島村
喜石
はま惣梅ちミけし清沢ゑ八吉な
石次右右人左兵井
んつ介エうよんま良ゑんエタ佐善んエエ村しんめ介すほさつ
門門門介藏門

小
たもかふかきなふはゑよきい甚吉兵文曾もけと善清のよ弥のつ
左右左川次五右
つんんめんよ々よるらしちゑエ吾エ村んんめ良良よねエよや
門門門

中
講
鈎中有逸松岩 小曾
上嶋山見葉附 曽
半村隨十勝新
同弥世エ講
鶯隱門頭
山居同

万きそりかちのま吉けみいしゑ
右
新嘉藤利利城小川
田兵右八代内平村
蔵ちよよつかよちゑんきくんん
門

鈎 石
ミよりも喜さ助与ひ光 次知も角よミなこ重りた上
左 右左右右 村
よめよよエいエエさ西 光んエねよつよエさよ
セ長門 門門門
りき人村松吉はいりといく武は浅角藤三弥利丈次 初なき口作か
之右 左右右良三兵右兵右
んか 進エツわきめわらエツエエ藏左良エエエミのよエつ
門 門門エ門

セ大須
人道伊喜エ賀ろさ安太忠い作佐ま富がハ原利さくいま
人村左兵村左兵右入村右
しいんとよて右エエつくきエエ藏がエ吉つ藏ん源
門門門

上門下大平
のミ ち勇り郡間三間清里藤吉林さももよちまかきし仲ひまはひ長つ
兵久良久右村右寺
ふよ よエは藏里兵里エ 藏エ村よよなよしうつやんろエめつづめ助ね
村エ村門門

鈎後平下三大神
上清谷庄間平新文ノこ竹弥明常弥ちきき孫谷平沢し番な林惣与森と巻み勘
弥次村兵左井宮村右下右三村町新村平村
右エ工村八村よ工村エ良よんよ市助も田か八次らきエ
門門門

徳木(花押)

南無阿弥陀仏

越谷市内の徳本行者の名号塔の分布(四ヶ所)

